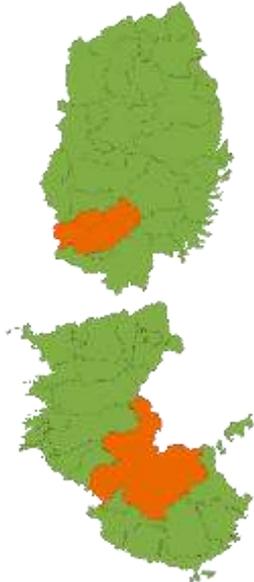


# 岩手県胆江地方および和歌山県

## 農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証



### 【地域の基礎データ】

人口：	130,211 人（胆江地方／令和 2 年 12 月末現在）
	71,947 人（田辺市／令和 2 年 12 月末現在）
高齢化率：	31.9%（胆江地方／平成 27 年 1 月 1 日現在）
	32.7%（田辺市／令和 2 年 1 月 1 日現在）
産 業：	農業（稲作、畜産） など（胆江地方）
	農業、漁業、林業 など（田辺市）

### 【活動の基本情報】

参加学生数：	31 名（1 回生：7 名、2 回生：15 名、3 回生：5 名、4 回生：4 名）
活動期間：	平成 26 年 6 月～
担当教員：	藤田武弘

### 1. 活動実施の経緯

「農村ワーキングホリデー」は、農業や農村に関心をもつ都市住民が、繁忙期の農作業を無償で手伝う代わりに農家から寝食の提供を受けるというもので、参加者と農家との深い交流を特徴とする“日本型グリーン・ツーリズム”のなかでも、最も「鏡効果（他者との交流を通じてみた日常生活に潜む価値への気づき等）」の高い取り組みである。学生を参加者とする域学連携型の農村ワーキングホリデーは、次世代の若者たちが、農業・農村が直面する地域課題を当事者意識をもって理解する機会を提供するとともに、多世代間の交流による「鏡効果」により地域のコミュニティが活性化するなどの変化が期待されている。

### 2. 活動の内容

今年度、岩手プログラムについては現地での活動実施やセミナー開催等の通常行事は見送ったが、①オンラインを活用した事前学習会（8/20-21：受入農家による稲作、野菜作、6 次産業化、農協に関するオンライン講義を受講して意見交換）、②過年度卒業生を含むオンライン同窓会等（12/17）の行事を準備して実施した。

また、和歌山プログラム（田辺市）については、現地でのみかんの収穫作業時期に合わせて、宿泊施設から各農園に通い作業に赴く形での「泊業分離型」のワーキングホリデーを学部の LIP 活動ガイドラインに準拠した形で実施した（2 泊 3 日）。

### 3. 活動を通じて

今年度は、コロナ禍のもとでの実施により通常の対面による活動ができなかった（または、「泊業分離」のため農家との交流が極めて限定された）ことから、通常期待される交流による「鏡効果」の検証作業を行うことは難しかったものの、オンラインを通じたやり取り（レコーディングデータによる情報の共有化）を通じて、次年度の参加意欲を喚起するに相応しい取組にはなったかと考えられる。オンラインでの活動は、事前・事後学習の機会としては有効であり、対面活動復活後のハイブリッド型の取り組みにも活かせる成果を得たと考えている。

#### 4. 成果物（ポスター）



## 農村ワーキングホリデーLIP

**活動目的**

農家の方が学生との交流を通して、田舎の日常生活に慣れた多種な価値に気づき、農村に対する「誇り」が再生していく過程や、移住はしないものの定期的に現地の人と関わり続ける「関係人口」づくりの効果について、岩手県や和歌山県の地域や行政と連携しながら考えます。

**活動内容（WHとは）**

都市部の希望者が農家に宿泊しつつ、農作業や農家の生活を体験するというものです。この取組を行うことで農家の労働不足の軽減、都市住民の農業への理解促進や、地域定住のきっかけ作りという効果があると考えられています。今年度は、和歌山県上秋津町のみかん農家でWHを行いました。このご時世、農家さん宅に宿泊することは出来なかったものの、自然に触れながら、普段の生活とは全く異なる体験をすることで自分のこれからの生活を見直すことのきっかけになるような活動ができます。

**岩手県奥州農村 WH オンライン学習会**

今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年のように岩手に赴くことが出来なかったため、オンライン(zoom)での学習会を行いました。阿部短果さんから「米づくりの1年(農事暦)と稲作農業の課題」、橋本勉さんから「野菜づくりの1年(農事暦)と農業経営、新規就農の思い」、及川久仁江さんから「農業の6次産業化と農家女性」、岸上光亮さんから「農業協同組合の役割と課題(直売所動向を含む)」について、それぞれお話を聞かせていただきました。WHで現地を訪れるのはまた異なった角度から農業・農村についての理解を深める良い機会となりました。(2年 履修)

◆

11月

**上秋津 WH オンライン事前学習会**

今年度は上秋津ワーキングホリデーに向けて、実際に農家の方をお呼びし、事前学習会を行いました。事前学習会では、みかんの栽培歴やかみ秋津全体の農業の話など普段は聞くことのできない貴重なお話をたくさんしていただきました。また、現地での活動のイメージができ、不安も和らぎました。農業についての理解を深める良い機会となりました。(1年 中演)

◆

12月

**上秋津 WH とは…?**

3日間、和歌山県上秋津町のみかん農家でWHを行いました。広大な畑で様々な種類のみかんが作られており、主にみかんの収穫を行いました。それがどれだけ大変な作業であるか実感し、これを毎日行っている農家の方々はすごいと感心させられました。物には選別や出荷なども体験させていただき、みかんがお店に並ぶまでの一連の流れを知ることができました。農家の方のお話から、後継者・人手不足などの課題も改めて実感し、非常に学ぶことの多い機会となり、WHについてより興味を持つ機会となりました。そして、本来であれば農家の方のお宅に宿泊させていただいたのですが、今回はコロナ禍のため、グリーンツーリズム施設『秋津野ガルテン』で食事・宿泊を行いました。農家の方と食事を共にすることはできませんでしたが、温かい方ばかりで気さくに話して下さって純粋に楽しむことができましたし、このようなご縁で関係を築くことができ非常に良かったと思えました。(2年 中環)

◆

12月

**奥州農村 WH オンライン同窓会**

オンラインではあるが、岩手の農家さんたちと顔を合わせて話すことができ嬉しかったです。なかなかオンラインに慣れるまで難しかったが、農家さんや普段なかなかできないOBOGの先輩方との交流もでき、新しい形だと感じました。農家さん同士の交流の場にもなっており、また先輩方を見て、長くつながれるということがとても素敵だなと感じ、私たちも大切にしたいと感じました。さらにこの同窓会を通して、コロナが早く落ち着いて実際に岩手に行きたい、直接お会いしたいという気持ちがより強まりました。(4年 同崎)

**今年度の課題**

- ・ 学年の違う学生同士の交流が少ない
- ・ 事前事後学習の時間が十分に取れなかった
- ・ オンラインでの活動が多かったこともあり、学生の個性によって学ぶ内容が大きく変わった
- ・ 農家さんと夕食をともにすることができず、受入農家との交流が少なかった
- ・ 新型コロナウイルスの影響でフィールドワークが一回しか実施できなかった。次年度は、岩手県でのWHも実現させたい。



**今後の展開**

- ・ オンラインによる事前学習の取組は今後も続けていく
- ・ 事後学習などを通じて学生同士の交流機会を増やす